

# 2014年度第3回 日本学連幹事会 議事録

開催日時：2015年(平成27年)1月24日(土) 15時20分～21時35分  
(16時54分～19時01分 一時中断)

開催会場：ホテル ファミテック(栃木県日光市)

## 【議題】

1. 自己紹介
2. インカレスプリントについて
3. 規約改正案について(ディスクリプション、パンチングシステム)
4. 大学院生の学連登録について
5. スキーオリエンテーリング世界学生選手権2016への対応について
6. インカレミドルBエリートについて
7. 地図会計について
8. シード選手紹介のあり方について
9. インカレ表彰、閉会式のあり方について
10. 目安箱の設置
11. 技術委員会報告
12. 理事会報告
13. 各部局活動報告
14. 各地区学連活動報告
15. 次期幹事について
16. 次回幹事会、総会について

## 【出席者】(敬称略)

氏名	役職	学校名
山川克則	副会長	東京大学卒
齋藤翔太	理事・2015年度インカレスプリント実行委員長	一橋大学卒
大西康平	技術委員会委員長	京都大学卒
宇井賢	幹事長	京都大学
佐藤大樹	副幹事長	東京工業大学
平野大輔	事業部長	名古屋大学
高橋秀明	広報部長	金沢大学
新粥文哉	事務局長	千葉大学
杉村俊輔	普及部長	東北大学
橋場良太	渉外部長	東北大学
大久保宗典	会計	東京大学
野本圭介	会計監査	筑波大学
五味あずさ	会計監査・次期幹事長	金沢大学
築地孝和	次期事業部長	神戸大学
田中悠	次期広報部長	慶應義塾大学
大川拓哉	北東学連幹事長	東北大学
久須美裕	北信越学連幹事長	新潟大学
村瀬貴紀	関東学連幹事長・次期副幹事長	筑波大学
今井祐太	東海学連幹事長	名古屋大学
糸井川壮大	関西学連幹事長	京都大学
田中求	次期北信越学連幹事長	金沢大学
小泉知貴	次期関東学連幹事長	慶應義塾大学
石山良太	次期東海学連幹事長	名古屋大学
松浦知佑	次期関西学連幹事長	大阪大学

議事録作成：高橋 秀明(広報部長・金沢大)

# 2014年度第3回 日本学連幹事会 議事録

発言者 (敬称略)	発言内容など
	幹事会開始: 15時20分
	<b>1.自己紹介</b> 今回の幹事会の出席者の自己紹介を行った。(参加者については表紙を参照)
	<b>2.インカレスプリントについて</b>
	来年度以降正式に開催されることとなった、インカレスプリントについて、予算やイベントアドバイザー、ガイドラインの内容について議論した。 このうち、予算については、実行委員会から予算案をあらかじめ幹事会に提示してもらい、疑問点などを指摘したうえで、それを承認することとした。また、地図調査にかかる費用については25万円を目安とし、それ以上かかる場合は、その理由を加えてもらうこととなった。
宇井	今回は、前回の幹事会で決めることができなかった、予算について議論していきたい。またインカレスプリントに関するガイドラインと規則案についても詰めていきたい。  【予算について】 各大学にアンケートを募ったところ、予算については「赤字ありきの運営は避けてほしい」とか、「スプリントの参加費を値上げしてもよいのではないか」、「観戦料を徴収してもいいのではないか」という意見があった。 また、予算については、「実行委員会にどのような形で会計のやりくりをしてもらうか」が課題となっている。以前、幹事会で出された意見では、「日本学連で事前に予算を組み、その範囲内で運営するように実行委員会にお願いする」という話があったが、まだ決定には至っていない。一方、日本学連本体で予算を組まない場合は、「実行委員会が予算案を編成してもらい、それを日本学連で承認する」という形になる。この形態だと、実行委員会の裁量に任せ過ぎる形になってしまう。そのため、前回の(臨時)幹事会では、「試行大会でできた、たたき台を基に予算を組めばよいだろう」という意見が出された。
佐藤	予算を考えるうえで、経費が最もかかるのは地図調査代金である。スプリントの競技範囲を調査するのにいくらかかるのか、こちらで見積もりを立てて、その範囲内で調査してもらうように、お願いすればいいのだろう。
大西	それは毎回やるのだろうか。また誰がやるのだろうか。
宇井	それも日本学連で行うこととなった場合、こちらで決める必要がある。
山川	それはいつの幹事会で議論されたのだろうか。
佐藤	前回の(臨時)幹事会である。今回はどのくらいの赤字なら認められるか、考えたい。2回の試行大会をたたき台として、学生側が決めるが、予算の幅がわかっている。
山川	地図調査は一定額の範囲内で行えばよいと考えている。前回幹事会で説明したと思うが、プロマッパ-3人で見積もりを取り合った結果、地図調査代は25万円と決めて試行大会の地図調査を行った。本番では1回のレースができればよいので、工夫して調査すれば問題ないと思っている。
齋藤	なお、来年度のインカレスプリントについては、実行委員会は別の形をとる。ただし、競技的な部分と実行委員長以外については、全てインカレロング実行委員会と共通である。会場も近隣地域であり(2/9要項1公開)、渉外活動も一緒である。そのため、予算の立て方についてははっきりしてもらってもこちらも助かる。 実質的に、開催テレインの下見や役員の交通費などの経費は、スプリント・ロング両方の運営に関わることになる。最終的には、どちらにどのくらいの時間をかけたかどうかで、それらの経費をスプリント及びロングに按分することになる。
山川	インカレスプリントの開催を決議した以上、ガイドラインにあるように、当面はその開催を継続していかなければいけない。開催を左右する一番大きな要因は、渉外問題である。もしそれによって(当初の計画での)開催が難しくなった場合は、渉外問題が発生した場合、予算的に厳しくなるので、上層部の判断で予算的な措置を講ずることのできる、柔軟性が必要となる。アンケートには、「赤字ありきで議論するのはおかしい」という意見があったが、開催を続けるには、公園という(他の種目とは渉外の)条件の違うところなので、とにかく努力をしなければならない。そして、価値をしっかりと作っていけば、参加者は増えると思っている。赤字の補てんについては、20万円以内ならば幹事会で決済できることとなっている。 今年度のインカレについて述べると、試行大会では、7万円ほどの赤字となった。しかし、インカレロングの会計ではほぼ同額の黒字が出た。今年度はこの議論のために、ロングとスプリントは別々の会計としたが、一緒にやればスプリントの赤字をロングで吸収するくらいのことではある。また、今年度のロングで特筆すべきことは、役員の交通費がこれまでと比べて、圧倒的に高かった。これは地理的要因によるもので、予算的な心配があったため、その対策を議論したが、乗り切ることが出来そうである。来年度の山梨ロングについても、交通費はかかるだろうが、今のペースで加盟員が増え、渉外がうまくまとまれば、ロング・スプリントを一緒に開催することで、スプリントの赤字は解消できると思う。

あと、試行大会では、女子の参加率やチャレンジクラスへの参加率が予想より少なかった。しかし、価値が高まっていけば、スプリント単独で十分黒字が出せるものと考えている。女子の選手権参加率が実行委員会の見積もり通りであったら、赤字にはならなかった。今後の一番の問題は、トレインや地図の面で、インカレらしいものができるかどうかである。

佐藤 なるべく継続性を重視してスプリントを開催してほしい。ロングと一緒に開催するのならば、資材面でコスト削減ができるので、そんなに赤字が出ることはないだろう。

山川 継続性を価値として一番の優先とすることが決議されている。予算的な議論をするうえでも、幹事会レベルで予算的な措置が打てるようにしておけばよいだろう。

佐藤 その対策案として、幹事会で決済可能な金額は通常20万円以下だが、スプリントに関しては特例として、その上限を引き上げればよいだろうか。

山川 あるいは、スプリント担当理事と幹事長と会計で決済するという仕組みも考えられる。

佐藤 20万円以内の決済をするだけでも幹事会の決済が必要であるから、そういったことも一理あるだろう。

宇井 ただ、ここでは、ひとまず、決済できる金額は、幹事会で(通常)決済できる20万円までとしておきたい。

山川 どうしても幹事会が開催できなかつたら、事後報告をするのもよいだろう。

宇井 予算については、補てんをどのようにすべきか決めておけばよいだろうか。

大西 普通に運営した場合でも、赤字になる可能性がある。開催が優先されるため、赤字の補てんを行うこととなっているが、いくらでも補てんするわけにはいかない。「赤字補てんをどのように制限するか」、また、「幹事会がそれをどのように管理していくかどうか」が重要である。(来年度のスプリントでは、学連側から予算案を作ることは、時期的に厳しいだろうし、運営側でないと計算できない。そのため(運営側)事前に予算案を出してもらい、それを承認したうえで、変更が生じた場合は、それを承認すればよいのではないだろうか。幹事会で決めておくのは、地図作成費とし、その上限が決まってもよいと思う。

山川 やりすぎない程度の制限をかけておくべきだろう。

大西 地図調査は本当に25万円かかってしまうものだろうか。

山川 これは私が見積もった数字ではない。しかし、安くできたとしても(予算通りの金額を)出していいのではないだろうか。作図は面倒な作業なので、15万円くらいでできるものではない。ただ、複雑な地形のトレインならば25万円では足りないかもしれない。

宇井 そうなると、上限というより、定額を定めるべきであろう。

佐藤 その金額の範囲内でできる限りの調査をするということでもいいだろうか。

山川 そのようにしてよいだろう。むやみに調査面積を広げる必要もない。

齋藤 その年の運営者によっては、例えば他の部分を削ってでも、地図にお金をかけてよい地図を作りたいという場合も想定されるので、そのあたりについては、柔軟性を持たせておけばよいと思う。

山川 幅広いコースを組む場合、25万円では足りないことが考えられるので、ある程度の柔軟性はあるべきだ。

佐藤 その場合は、スプリント担当理事から幹事会に事情を話してもらえればよいだろう。

宇井 それでは、金額を決めておいて、それ以上かかる場合については幹事会の承認を必要とすればよいだろう。

齋藤 そもそも、承認するのは、地図部分のみにするか、それとも会計全体だろうか。

宇井 予算については、その全体を見て承認することになると思う。地図調査に関しては25万円という予算の範囲内で行うことを決めておき、それが上下する場合、特にもっとかかる場合は地図調査の部分だけ議論することになると思う。

齋藤 結局出されても条件付きで承認するしかない。否決したらインカレが開催できなくなる。どちらかという、事前報告のような形になると思う。

佐藤 実行委員会から事前に予算案を出してもらい、幹事会で承認する形でよいだろう。

宇井 その段階で地図の値段が高かった場合は、その理由をつけてもらえばよいだろう。  
→予算については、予算案を第1回幹事会までに出してもらい、気になる点を挙げて承認することとした。また地図調査にかかる費用については25万円を目安とし、それ以上かかる場合は、その理由を加えてもらうこととなった。

【アドバイザーについて】

齋藤 (ガイドラインにおける)アドバイザーについての記述(10. アドバイザ『アドバイザーは…インカレロングとの兼任はできない。』)だが、「別々とするのが望ましい」という程度の表現にしてほしい。実行委員長と競技責任者は(スプリント・ロングの)それぞれ専任となるが、イベントアドバイザーが別々であることを必須とすると、規則として厳しすぎるので、文言を考えてほしい。

佐藤 ある程度の幅を持たせないといけないうらう。

山川 渉外問題が発生することもあり得るので、いろんなことを想定して書かねばならない。

齋藤 このガイドライン案ではまだ想定されていない。  
この中では、『アドバイザーは、当面の間、前の大会で重要職を勤めたものが就くことを強く求める。また経験度の高い者複数が就任することも強く求める。インカレロングとの兼任はできない。これは、インカレスプリントも他種目と同様の価値を創り出すために、同時開催のインカレロングの価値観に影響を受けて判断をしてはならないとの観点による。』となっている。

ここでは、目的をしっかりと書いておき、柔軟に考えればよいと思う。目的に逸脱した場合は幹事会に指摘してもらえばいいのではないだろうか。もっと文章の表現を柔らかくしてほしい。「インカレロングとの兼任をしないことが望ましい」という程度の表現にしておけばよいだろう。イベントアドバイザー・実行委員会はともに理事会の承認が必要なので、理事会に入っている幹事長がしっかりと見てもらえればよいと思う。

宇井 (今指摘のあったように)幅を持たせた表現に直したい。

【スプリントの予選・決勝方式での開催について】

山川 予選決勝方式の道を閉ざさないような議論をしてほしい。

齋藤 予選決勝方式を閉ざすような案にはなっていない。基本的には、モデルイベントを含めて実行委員会に一任されることになっている。

宇井 モデルイベントについてはあくまでも「開催されることが望ましい」という表現になっているし、スプリントの競技形式も定められていないので。

佐藤 競技形式については先に発表してもらえばいいのだろうか。

山川 涉外問題があるので、厳しいだろう。

齋藤 涉外問題は多少動いているが、競技エリアがまだ決まっていないので、発表するタイミングが難しい。

宇井 面白いと思うが、継続性を考えた場合、リスクが少し高いだろう。

齋藤 当面は私がスプリントについて担当するので、あまり硬く決めないほうがよいだろう。

佐藤 実行委員会がやりやすいように、競技形式を決めてほしい。学生側はテレインを知らない以上、テレインの制約などもわからないので、議論できない。

宇井 それでは、競技形式についてはガイドレインでは決めないこととしたい。

佐藤 予選決勝で開催する場合は先に幹事会や涉外へ連絡するなどをすれば大丈夫だろう。

山川 やったからと言って、それがベストであるとはしないほうがよいだろう。

【その他の疑問点など】

宇井 アンケートで予算の疑問点が上がっている。

「会計について赤字分は日本学連会計から補てんされるとのことだが、黒字になった場合日本学連会計に返金されるのか、それとも来年度のインカレスプリントの運営費として引き継がれるのか」スプリントの黒字分はどうなるのか。

山川 ミドルと同じように(日本学連会計に戻される形でよい)。

宇井 それでは、戻されるという形にしたい。

大西 大阪大から、「今回のインカレスプリント試行大会の結果を来年度の枠の配分に使われるのに反対する」という意見が寄せられていた。

宇井 使わないということにしてあるはずだ。

大西 「試行大会なので使わない」という話だったので、それは勘違いということでもいいだろう。

佐藤 試行大会だから出ないという人もいたので(使うことはよくない)。

枠については、各地区学連に割り振った後、その中で割り振ってもらうということでもよいだろうか。

宇井 そこについては、特に反対意見はなかった。

齋藤 人数について反対意見が多かったが、どうするのか。例えば、男子60人を2分間隔で出走させると、それだけで2時間かかる。

山川 スプリントの出走間隔は1分である。

齋藤 それは運営側の考え次第であり、ここで決められることではない。しかし、アンケートの結果を見ている限り、反対意見が多い。運営のスケジュールに大きく関わるので、男子60、女子30で本当によいのか確認しておきたい。

宇井 前回までの議論では、男子60女子30であった。試行大会ではあまり人数が集まらない地区学連もあったが、それは試行大会だったため、インカレスプリントになったら人が集まるのではないか、普及していくのではないだろうか、という期待も込めて、ロング・ミドルと人数をそろえている。その反対意見の中の「少ない方がよい」という意見があったが、「多すぎる」という意見が結構あった。

佐藤 東大からは、男子40女子20、あるいは男子30女子15まで減らしてもよいだろう、と具体的な数字を上げている。

大西 実力としてそういうのもあるかもしれないが、例えば、男子30女子15とした場合、予選決勝方式で絞ってその数になるのならいいが、学連に枠を振る場合、女子15を振るとすごく少ないので、学連ごと割り振ることを考えて、多めに設定した方がよいだろう。

佐藤 とりあえず走ってもらいたいという意図がある。

山川 参加費収入などの予算的なこともあるし、スプリント種目はロングやミドルよりも、登竜門としての間口は広くあるべきだという考え方があるので、人数を少なくしてしまうとその考え方に反してしまう。

大西 スプリントではロングやミドルより距離が短い分、競える人数は多くてもいいはずである。

佐藤 幹事会としての方向性はどうか。60、30は多いと思うだろうか。

→多いと感じる:5人、このくらい13人、少ない:0人

宇井 ここで聞いた感じだと、このくらいが適正だと思っている人が多い。

村瀬	多いと思ったのは、そもそも魅せるスプリントという話があったので、レベルの高い人がいてほしいという思いがある。60だとレベルの差が出てくる。ただ、枠のことを考えると今の人数で仕方ないと思う。
大西	それはエキシビジョンのような形として開催してほしいということだろうか。
村瀬	そういうのもありだと思うが、そうなるとインカレとは違う感じになる。
宇井	インカレスプリントとしてあまり人数を少なくしてしまうのはよくないと個人的に思う。
佐藤	オリエンテーリングの実力は発展途上だが、足の速いという人にも(エリートを走る)機会を与えたいという目的もあったので人数は多少多いくらいがいいと個人的には思う。ただ、「スプリントを見る」という観点からすれば、人数は多いだろう。試行大会でも女子の出走するところそうだったが、観客も疲れてしまう。
山川	そのようにして議論を突き詰めていくと、理想的な競技環境であれば、予選決勝がよいということになる。
佐藤	そのようになる。その方が予選で走ることになるし、見ごたえもある。
系井川	男子と女子を同時に出走させれば時間の短縮になるのではないだろうか。
大西	優勝設定時間帯を分ければいいのではないだろうか。ミドル・ロングでもそのような調整をしている。
山川	完全に分かれなくても、優勝・入賞がずれればいくらかの設計で思う。
宇井	意見を出した大学の数が少ないので、多いという意見が(加盟員の)多数とは言い切れない。幹事会としては、適正であるとしたい。
佐藤	何回か開催して、多いようなら、その都度議論していけばよいだろう。しばらくは男子60、女子30で開催することとしたい。
宇井	ガイドラインでもう一つ来ていたのだが、「『モデルイベントを併催することが望ましい』としているのを『原則開催する』こととしてほしい」という意見があった。ただ、ミドル・リレーの競技規則でも「モデルイベントの開催が望ましい」という表現になっているので、原則とすることは、スプリントの継続性を考えている以上、難しいだろう。
山川	前回幹事会で継続性第一で議論した以上、モデルイベントを開催しないこともあり得るとするしかない。
宇井	そのままの表現としたい。
	あと、枠の数に人数が満たない地区学連があったとき返上する形になるが、その再配分について一つ意見があった。「その枠の数だけダブルチャンスとして、全国型希望者を募りセレクションを開催する」というものだった。「または、何枠か残して地区学連に配分し、残した分は敗者復活という形で直近の大会での成績を参考に選考する」という案が出された。ただ、そのようにしなくても、ロング・ミドルと同様に、返上した学連以外の地区学連へ実績をみて再配分する形でよいと思う。
<b>3.規約改正案について(ディスクリプション、パンチングシステム)</b>	
インカレスプリントの開催決定などに伴って、作成された「日本学生オリエンテーリング選手権実施規則」(インカレ実施規則)の改正案について、各大学などから寄せられた指摘・意見について、議論した。その結果、インカレスプリント開催や競技の公平性のために必要な記述を追加することとなった。	
宇井	インカレスプリントの開催決定に伴い、インカレ実施規則の改正案が作成された。これについて意見を募集したところ、不備があるという指摘がいくつか寄せられたので、確認していきたい。
宇井	8.2「ロング、ミドルにおいては、スタート順等において配慮される競技者(シード選手)を設けることができる。…」という記述において、「スプリントにおけるシード選手についての記述がないが、あってもよいのではないだろうか」ということであった。
齋藤	設けてほしい。その記述があるという認識でした。
宇井	シード選手の最大人数は、ロング男子10人・女子7人、ミドル男子8人・女子5人である。スプリントの選手権の部出走者数は男子はロングと同数の60人、女子はロングより10人少ない30人であることを考えると、男子10人であるが、女子は何人にすればよいだろうか。
大久保	ロングやミドルのシード選手の人数を参考にすれば、女子6人になる。
佐藤	男子10人・女子6人でどうだろうか。 (この案に異論がないようなので)、スプリントのシード選手の選出数は男子10人以内・女子6人以内としたい。
齋藤	ただ、1つ気になったのだが、ミドルが予選・決勝方式で開催されていたころ、シード選手はもっと多かった。将来スプリントを予選・決勝方式で開催することを想定した場合、同じようにもっと多く選出してもいいのではないだろうか。
大西	(シード選手の人数が)選手権の出走者数の何倍掛けになるようにすれば、あらゆる場合に対応できるのではないだろうか。
佐藤	ここの表現を書き換えてしまった方がいいのだろう。
大西	(現在のロング・ミドルの人数を踏まえれば、その割合は)6分の1くらいだろうか。
山川	割合で指定して、切り上げた方が無難かもしれない。「～程度」としてもいいのではないだろうか。
宇井	今の議論を踏まえて、「シード選手の選出数は、選手権の部出走者数の6分の1程度とする」とこととしたい。

宇井	18.1「地図はJOAの『日本オリエンテーリング地図図式』に適合したものを使用する」において、「日本オリエンテーリング地図図式の適用範囲として、ロング・ミドル・リレーと明記すべきだ」という意見があった。
宇井	その通りである。その明記をお願いしたい。
宇井	29.6「…決して競技に影響を及ぼしてはならず、他の競技者を助けてはならない」において、「『競技的に助けてはいけない』としてもよいのではないだろうか」という意見が出ている。これはどういう意味だろうか。
系井川	「けが人を助けてはいけない」とも受け取れる表現であることを指摘しているのではないだろうか。
佐藤	「競技に影響を及ぼしてはいけない」ということを言ってほしいのだろう。
大西	その条文は以前から存在しており、もともとはコントロールカードに関して述べていた。この規則案では、その部分についてのみ削除しており、「助けてはならない」という言葉については変更はしていない。ただ、違和感を感じるならば、「競技的に影響を及ぼさない」と表現を変えておけばよいだろう。
宇井	第24条「パンチングシステム」において、「SIのバックアップ体制について何らかの形で明記すべき」という意見があった。
大西	SIを使用する場合、機器が反応しないとき、地図にピンパンチすることになっている。しかし、これはあくまでもSIの場合のみの処置なので、実施規則ではなくプログラムなどに書かれる内容である。
宇井	また、「ディスクリプションの大きさについてプログラムまたは掲示板で明記するように、規則に書いてほしい」とのことだった。
大西	ミドル・リレーでは、必ず公開されているが、ロングでも欲しいということなのだろうか。
大西	おそらく、「現在の規則ではその規定がないので、新たに規則にしてほしい」ということなのだと思う。厳密に大きさを書かなければいけないものなのだろうか。「書くことが望ましい」というくらいの記述ならいいのかもしれない。
齋藤	ただ、「望ましいこと」は実施規則に書くべきなのだろうか。規則というのは決まり事が書かれたものである。
大西	デフの大きさについて明示する必要はあるのだろうか。
齋藤	まず、「この実施規則では、どういうものを基準に、どういうことを書いているのか」考えなくてはいけない。さらに、「それらの要望は規則に書くべきなのか、それともインカレ実行委員会で引き継いでいくべきなのか」もポイントである。ここに絶対に書かなければならないのは、書かなければ競技の公平性に影響が出る事項である。今の要望は、スプリントに関係ないことである。
宇井	そのように考えると、「実施規則に書くほどのことではない」ということになるだろう。
大西	ここには書かなくてはいいだろう。
系井川	ただ、23.5には「(コントロールは、その場所に競技者がいるかいないかで難易度が変わらないような場所が)望ましい」という表現が使われている。
大西	スタート枠で配布されることに関しては、「望ましい」としたほうがよいだろう。競技の公平性を考えれば、スタート枠で配布するのがよいだろう。
宇井	そのようにしても問題ないと思う。
大西	その記述の後に、「あらかじめその大きさが公開されていることが望ましい」とすればいいだろうか。
宇井	そのくらいの表現でいいと思う。
宇井	さらに、私の方で修正すべき点を探してみた。
	2.6「男子ロング・女子ロングにおける優勝者をロング・ディスタンス競技選手権者…とする」に「男子スプリント・女子スプリントにおける優勝者をスプリント選手権者とする」という規定を加えるべきであろう。また、27.3についても同様である。「(ロング、ミドル)」というところに「スプリント」が抜けていると思う。
宇井	あと、意見書に出た意見で、「ミドル・リレーでは原則日本旅行の幹旋先に宿泊することになっているが、これを緩和してほしい。ロングでは宿泊先は自由である一方、ミドル・リレーでは指定されている理由が知りたい。」とのことだった。
大西	宿泊先がバラバラだと、(会場やスタート待機所までの)輸送がしにくいからである。
齋藤	それは運営の負荷となってしまう。また、インカレスプリントが開催されるようになれば、スプリント・ロングについても将来的に宿泊先を指定するようになることもありうる。
宇井	「今までは、ロングは1日だけであったから(宿泊先の指定がなかった)」という解釈ができるだろう。
宇井	他に何か取り上げるべき事項はないだろうか。
齋藤	来年度スプリント・ロングについては1月中旬に要項を出せるように、準備しているところである。あと、スプリントに関しては、昨年度から議論してきたとおり、「学生などが運営に入ってもよいだろう」という話だったので、この1年間議論に参加してきて、運営に加わりたい人がいれば、オフィシャルにならなければ、興味のある人は声をかけてほしい。運営者は全国に散らばることになるので、どこの人でも大丈夫だろう。
<b>4.大学院生の加盟登録について</b>	
前回の臨時総会以降、特に大きな進展はないため、今回の幹事会では、幹事会としての方向性を再確認した。	

	<p>これまでの議論で、幹事会としては、「専攻科学生は加盟を認める一方、聴講生・研究生・大学院生は加盟を認めない」方針となった。また、留学生についても「正規生ではないので認められない」とした。この中では、基本方針として「その学生が正規生かどうか」ということと、「学生チャンプを決めるのにふさわしいかどうか」ということが、判断基準になっている。</p> <p>なお、前回の臨時総会は欠席した加盟校が少なくなかったため、3月の総会までにまた意見を募ることとした。</p>
佐藤 宇井 佐藤 野本	<p>何か確認しておきたいことはないだろうか。</p> <p>留学生はどういう扱いであっただろうか。</p> <p>正規生ではないので、加盟は認められないこととしている。</p> <p>以前の議論では、各大学の留学生に対する扱い(正規生としているか、非正規生とみなすか)によることとしていた。(その学生が所属する)大学で正規生と認められていなければ、加盟は認められないものとした。</p>
佐藤 杉村	<p>以前東北大にいた留学生の場合は、どのような扱いだっただろうか。</p> <p>大学内では正規生としての扱いではなかった。東北大の場合、1年程度の留学では正規生として認められていない。その留学生も1年間留学していた。</p>
大西 佐藤	<p>それ以上の留学は、もはや留学生というより通常の在大学生である。</p> <p>「大学から正規生として認められている場合、インカレ選手権の部への参加は認められるが、そうでない場合は、その参加は認められない。ただし、一般クラスへの出場は制限しない。」という、これまで通りの方針で行きたい。</p>
	<p><b>5.スキーオリエンテーリング世界学生選手権2016への対応について</b></p>
	<p>2016年に開催が予定されている、スキーオリエンテーリング世界学生選手権の日本代表を選考するため、それに関する事項について確認がなされた。そして、「日本学連スキーオリエンテーリング委員会」の設立が承認された。</p>
宇井	<p>木村理事から連絡があり、(スキーオリエンテーリングに関して)確認してほしいことが3つ出されている。</p> <p>【確認すること】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本学連は日本の学生オリエンテーリングを代表する唯一の組織である。</li> <li>・オリエンテーリングの範疇は、フットO、スキーO、MTBO、トレイルOを指す。</li> <li>・学生日本代表選考は、日本学連が行う。</li> </ul>
宇井	<p>これらについて異論はないだろうか。</p> <p>→特に異論は出されず、幹事会で確認されたこととした。</p>
宇井	<p>また、「日本学連スキーオリエンテーリング委員会の設立の承認をいただきたい」とのことである。委員長は木村理事が務める。2014年度の予算要求はなく、スキーオリエンテーリング世界学生選手権の日本代表選考は、日本学連スキーオリエンテーリング委員会が行うとのことである。これについても異論はないだろうか。</p> <p>→特に異論は出されず、「日本学連スキーオリエンテーリング委員会」の設立が承認された。(現幹事13人中賛成13反対0)</p>
	<p><b>6.インカレミドルBエリートについて</b></p>
	<p>幹事会としての方針として、「選手権Bはかつての予選・決勝方式からの移行措置で設けられたクラスであり、現在ではその存在価値があいまいになっていること、それに選手権Bの結果次第で選手権Aの学連枠が決まる理由もあいまいであることを踏まえ、廃止することが望ましい」、そして「廃止する場合、選手権の部の出走者数は、現在の加盟員・インカレ参加者の男女比を鑑みて、男子60(ロングと同数)女子30(ロングより10少ない)とする」こととなった。</p>
宇井	<p>昨年12月に開催した第2回臨時総会后、大西・技術委員長からのメールを渉外メーリングリストへ転送した。そこでは、Bエリートを廃止する場合における、3月の総会までのロードマップについて説明がなされている。</p> <p>さらに、リマインダーを渉外メーリングリストを送った。しかし、うまく送られていなかったようだ。それ以前にも各加盟員からの意見をまとめているが、この幹事会の後も意見を集める機会があった方がよいだろう。</p>
宇井	<p>今日主に話し合うことは、幹事会としての方向性の確認である。</p> <p>前回までの幹事会では、(Bエリートを廃止した場合)当初の技術委員会案にあった「一般の部上位クラス」は設けないこととした。Bエリートについては、廃止反対の意見が少なくないので、その意見をどのように反映させていくのか、問題になっている。</p> <p>また、廃止する場合は、選手権の部の出場人数については、議論の流れでは、男子60女子30であったが、いろんな意見があったので、議論の余地があると思う。ここでは、Bエリートを廃止する前提で、選手権の部の出場人数について議論していきたい。</p>

<p>宇井 五味 齋藤</p> <p>新粥 橋場 齋藤</p> <p>野本 杉村 宇井</p> <p>佐藤 大西</p> <p>宇井</p> <p>齋藤 宇井</p> <p>佐藤</p>	<p>今回出してくれた意見の中には、「現在Bエリート上位の層にいる選手に対して、エリート出走のモチベーションを保つために、(Aエリートの出場人数)+(Bエリート出場人数の半分)=男子80女子35もしくは40ではどうだろうか」とか、「Bエリート廃止反対の意見の中に、Bエリートのモチベーションを保つ、とあるが、これはエリートの人数を増やすことによって代償できるのではないだろうか。具体数は男子80女子40である。」という意見があった。男子と女子の人数を増やすことについては、どう思うだろうか。</p> <p>実力的にあともう少しでAエリートとなれる人にとっては、「エリートの人数を増やすことによって、チャンスが増える」という意味で、そのモチベーションを保つことができるかもしれない。ただ、あまり多すぎると、1番速い人と遅い人との実力の差を考慮したとき、選手権として価値があるのか疑問が生まれる。運営面でも時間が厳しくなるだろう。</p> <p>みんなはどう思うか。男子60女子30にすべきか、それとももっと増やすべきだろうか。</p> <p>→男子60女子30とすべき:8、男子80女子40:0、男子60女子40:8</p> <p>選手権の部はある程度人数を絞った形で行うべき、だということなのだろう。</p> <p>ロングの選手権の分出走者数(男子60女子40)と比べて、女子の人数が少ない。</p> <p>現在の加盟員数とその男女比を見てから決めるべきだと思う。現在の選手権の部出走者数は、開催方式が変更されたときの加盟員の男女比で決めているが、当時女子は現在より少なかった。</p> <p>現在の加盟員数は、男子823人、女子403人、合計1226人である。</p> <p>人数を増やすとした場合、運営負担を考えると、どのくらいが限界なのか。</p> <p>出走者を20人増やすだけで、スタート時間が40分伸び、その分観戦時間も延びる。間延びすることとBエリートへのモチベーションのどちらを優先させるか問題となる。ただ忘れてほしくないのは、インカレの一番の目的は「学生日本一を決めること」である。</p> <p>今年の全体のインカレミドル参加者は816人、リレー参加者は829人であった。</p> <p>今年の女子の参加者は、おおよそ240人くらいである。</p> <p>男子60女子40にすると、女子の方が参加者数に対してエリートを走る割合が高くなる。参加者数から判断すれば、男子60女子30の方が妥当だろう。</p> <p>この辺の数字を示して、各加盟校で話し合ってもらった方がいいだろう。</p> <p>みんなから「今の枠は少なすぎる」という意見が上がってくるのならば、変えるべきだと思うし、そういう意見が少数派で、今の数の方がよいと思うのならば、そういう説明をすればいいと思う。ただ、幹事会としての意見は決めておいた方がいいと思う。</p> <p>幹事会の意見としては、「Bエリートを廃止する場合、選手権の部の出走者数は、男子60女子30とする」ことでよいだろうか。</p> <p>ただ、幹事の中に「Bエリートを残すべきだ」という意見の人もいてもおかしくはないと思う。幹事の意見を確認したい。</p> <p>→インカレミドル選手権Bを廃止すべき:16、存続させるべき:1</p> <p>→廃止する場合の選手権出走者数について、男子60女子30とすべき:17、男子60女子40とすべき:</p> <p>→幹事会としては、「Bエリートを廃止し、(選手権出走者数を)男子60女子30とする」方針となつ</p> <p>幹事会としての意見に至った理由を加えた方がよい。</p> <p>(これまでの議論をまとめると、選手権B廃止の理由としては、)選手権の部は本来学生日本一を決めるためのクラスであり、「Bエリート」という存在意義やBエリートの結果次第で学連枠が左右される現制度の理由があいまいになっていること、さらに、Bエリートという存在自体は、かつての予選決勝方式が現方式へ変更された際の移行措置の名残であったことが挙げられる。</p> <p>選手権の部の出走者数については、増やしすぎると「学生日本一を決める」という目的に沿わなくなる。インカレ参加者数の人数比をみると、男子:女子=2:1であるから、男子60女子30とすべきというところだろう。</p> <p>幹事会としての意見を涉外メーリングリストで周知し、3月の総会で決めていきたい。</p>
<p>齋藤</p>	<p><b>7.地図会計について</b></p> <p>筑波大学大会での実績を踏まえ、日本学連の地図管理について議論した。この中で、業者から提案のあった場合に提出される計画書・見積書については、大会や合宿での利用見込みといった採算背にに加え、1h当たりの面積を調査するのにかかる費用を、事業の妥当性を判断する材料の一つとすることとした。また、正責任者である会計と、副責任者である地図会計担当理事が見積書などのデータを持つこととなった。</p> <p>地図会計は2・3年かけてやってきているものであり、これから運用を始めていくこととなる。現在日本学連には2000万円以上の資産がある。しかし、ただ持っただけでも仕方がないし、一番の財産は主に日光・矢板に所在する地図である。これは合宿で頻りに使うので、そのお金を積極的に更新していくこと、またプロマッパが増えてきたので、そういった人たちに相応の対価を払って、お互いにとって良いことをしていこうとして作ったのが地図規約である。</p> <p>このスキームとして、提案は誰でもできる。具体的には、(幹事会翌日に開催される)筑波大学大会のように、大会を開きたい大学がお願いすることができるし、プロマッパもしっかりとした計画が立てられていて妥当性が認められていけば、日本学連からお金を出して調査を行ってもらうことになる。</p>

一番最初に出してもらるのが、様式1(計画書)と様式2(見積書)である。見積りの金額次第で誰が判断するかが変わってくる。20万円以内は理事と3役、200万円以内は幹事会決済、それ以上は総会決済としている。それが通ると、正式に契約を結ぶことになるが、その手続きを定めたものがこの規約の概要である。

この規約のつとった事業は、まだない。規約自体は昨年3月の日本学連総会で承認されて、成立しているが、筑波大大会については、規約成立前に幹事会が決済されていたので、正確にはそれに則る必要はないが、今後の情報蓄積のために、山川さんに作ってもらった。

我々が一番わからないのは、地図調査にいくらかかるかであり、それは誰にもわからない。お金を払う以上、そこには相手の給料や経費が含まれるのがふつうである。今一番考えがこもっているのは、面積当たりの単価を蓄積していき、実績とこれからの計画と比べて価格の妥当性を見ていくことと思う。最初は山川さんなどがやっているの、信頼ベースでやっていき、データを積み重ねていき、資産活用に生かしていきたいと思う。

これとは別に、日本学連とYMOE社との契約関係をはっきりさせるために、委託管理契約を作った。この内容は、基本的には合宿は山川さんをお願いするが、地図代金のうちの日本学連の売り上げと山川さんの手数料分について定めた。山川さんには、地図の調製、すなわちオンデマンド印刷をして渡すまでを委託しており、その対価を支払っているが、それを明文化したものが、それである。業務委託契約については、難しい話であるので、最終的にはベテランの理事に見ていただくことしたい。

山川 やることについてもう少し具体的に書いておきたいと思うので、後日調整したい。

#### 【地図様式について】

齋藤 まず疑問なのが、見積書の面積の単位である。1hあたりの単価としよう。今の様式は1㎡あたりとなっている。

山川 1hあたりの方が現実的でわかりやすい。

齋藤 あと、地区の名前を書いてもらっているが、その根拠として行政図などで調査範囲を示してもらってわかりやすい。

山川 筑波レベルの事業ならば20万円を超えるので、幹事会での決裁が必要である。

大西 ちなみに、実際にかかった費用はちょうど6000円となっているが、経費込でこの金額なのだろうか。

山川 ザックリで記載することになっていたの、この金額になった。

大西 そうすると、実際にかかった費用から面積を割り出しているだけでなり、実際に調査・作図した面積と実際の経費との対比になっていないと思う。

山川 前回の幹事会では、かかった経費にたいして多い・少ないというのはやめて、面積でザックリ評価した方がよいという話だった。

齋藤 経費がどのくらいかかっているのかどうかはどうでもよい。

大西 実際にかかっている経費はもっと少ないということになるのか。

齋藤 経費はもっと少ない。これは山川さんの収益を含めた金額となっている。

山川 (これまでの例を見ると、同じような形で2013年9月に早大OC大会が開催された) 毘沙門山は大赤字であった。プロマッパーに支払った金額とアパート代で115万円くらい支払った。その時の予算は120万円となっているが、立ち上げる際の赤字は仕方がないと思っている。

大西 制度として、この値段でいいか審査するのに、(材料が)これだけだと判断の仕様がなと思う。

山川 会社としてはかなりリスクを背負っている。そのような意見が出てくると思っている。今回の筑波大学大会については、十分な余裕をもって矢板インカレなどと絡めて計画を立てたが、昨年の大雪の影響などを受け、予定外に日程が厳しかった。

大西さんの意見は妥当であり、実際にどのくらいもらうのが本当に妥当なのか、という数値的な評価は、そういう意味では、毘沙門山(2013年9月/早大OC大会)・矢板山田(2013年11月/千葉大・東工大大会)ともに、出来ていない。

今回は私が一人で調査を行った。見積書を見てほしい。

大西 書かれているのは、実働37日くらいだが、これだけで判断してほしいということなのか。

山川 齋藤理事との話の中では、それで判断しようということになっていた。

齋藤 いくらで調査を行うかどうかははっきり言ってどうでもよい。大切なのは、最初の大会でどのくらい売り上げ、その後の合宿でどのくらい売り上げが見込まれるか、また我々が支払う事業費が釣り合っているか我々が判断すれば、マッパーがどれだけ儲けようと問題はない。相手の生活を考える必要は厳密には全くない。

山川 今回の実働日数には、渉外関係の書類作成などの時間は含まれていない。また、筑波大学大会のために矢板に滞在できたのは、最大9日間であった。家庭の事情があり、その交通費を経費に載せるのは評価の対象外だと思う。

大西 そうではなくて、例えば、プロマッパーでは、利益を含めると、どのくらいの値段が妥当なのか考えると、どうなのか。値段が決まらない。ふつうどのくらいの日給なら良いのだろうか。

齋藤 1日だけにかかる費用も、数日にかかってかかる費用もあるので、日給にするのは厳しい。だから面積ベースとした。

山川 日給+経費という計算はやめようという話から、面積ベースという話となった。

齋藤 冷たいことを言ってしまうえば、先ほどあった家庭の事情というのは、個人事業主ならば世の中の誰もが背負っているリスクであるので、そこまで面倒を見る必要はない。筑波大学大会についてはよい試金石となったと思う。

	現に道路工事などの事業でも、経費すべて込みの金額で引き受けるし、その中でいくら経費を下げるかどうかは、引き受けた業者の自助努力である。プロの責任であり、こちらも追及していかななくてはならない。
山川	インカレ本番については、渉外などでもっと時間がかかるので、面積当たりの単価は6000円以上と
大西	例えば、6000円が妥当だとすると、面積はどこで判断するのだろうか。
山川	調査の難しい地形もあるので、一概には言えない。
山川	面積で絞ってしまって荒い調査をされるのは困る。西村氏も請け負うときはリスクを負うだろうし、行政が業者に出すときもそうだろう。
齋藤	最初は雑なところがあっても、データを蓄積していくしかないと思う。
	面積については、自分が実際に調査した面積ということで構わないだろうか。
山川	調査の難易度に関わらず、ザックリとやってしまえばよい。
齋藤	容易さは我々にはわからない。その面積の根拠となるくらいの地図調査代金は支払うということによいだろう。
山川	あとは、今後たくさん売れるような地図を作っていくつもりである。筑波大学大会の開催テレインは、来年度の春インカレに向けてのよいトレーニングテレインであり、たくさん売れると思う。
五味	調査の難易度で面積が変わるということはどういうことだろうか。
山川	面積は変わらない。単価が変わるということである。
齋藤	例えば、単価8000円という申請が来ても、将来の売り上げとの釣り合いが取れていれば問題ない。しかし、経費の方が大きく上回ってしまう場合、その理由について突き詰めていかななくてはならない。
山川	お互いにデータを蓄積していかななくてはならない。
齋藤	今回についても、矢板・日光テレインについては単価は6000円が妥当だというデータが蓄積された。
山川	毘沙門の120万は安し過ぎた。矢板山田は実績の数字が使えず妥当性が評価できない。筑波については信頼性があると思う。
齋藤	会計と担当理事と幹事長でしっかり話をしていこうということになっている。結局5年に1度くらい地図を修正することとして、日本学連は設けることを目的とはしていないので、合宿で売り上げのある地図ならば、5年間で採算が取れなくても問題ない。最初は手探りの状態なので、理由をつけるのが難しい。
山川	委託管理契約では、現状の関係を明文化している側面がある。地図や渉外関係を日本学連の財産として見据えていくことを、明確なビジョンとしてYMOE社発足当初から私は打ち出している。それから4年経ったが、新しいプロジェクトを立ち上げたのは2013年度からであるが、地図売上がこれまでより大きく増えている。
齋藤	地図の代金は1枚350円であるが、その内訳は200円は日本学連の収入、150円はYMOE社の手数料となっている。2013年度は1万枚以上の売り上げがあったので、180万円となった。
山川	新しい地図規約に則って計画している事業が、現在いくつかある。そのうち一つは、矢板塩田地区でテレイン内に直接インカレのフィニッシュを設けることができないテレインがいくつかあるので、そういう場所を中心に早稲田・千葉大・東工大・筑波に続くような大学に開放して、激励していきたい。立候補があれば、すぐその発議をしたい。また、セクションでも手を上げるところもあると思うので、そのときは地図予算を使って修正をかけて、日本学連の財産として維持管理をしていきたい。すでにここ2年くらいについては、セレの実行委員会が立ち上がった時は、地図作成はこちらで行ってきた。矢板塩田は試合ではロングでしか使えない。セクションなどの喫緊の目標がないと改定作業ができないため、ここ数年はその予算があったにもかかわらず、修正がされていなかった。合宿するところにはそれを承知してもらったが、さすがに責任放棄なので、1か月以上の周知期間を経て1月10日にクローズした。
	お金のでもとはロングの会計となるが、地図契約についてどこまでカバーできるのかまだ明確に決まっていないが、学連の資産として事後の渉外にも責任を持っていく予定のテレインについては本会計・実行委員会会計のどちらの予算を使うかに関わらず、すべて数値化してデータを出したいと思う。
	今後、地図規約には日本学連と委託管理契約を結んだ、指定管理業者は幹事会で細かい報告を逐一することが義務付けられる。
齋藤	20万円までは地図会計担当理事・幹事長・副幹事長・会計で、200万円までは幹事会決済、それ以上は総会決済である。
大西	今後このような事業が出てきた場合は、幹事は何を判断しなければならないのか。
大西	幹事会の人には地図調査にかかる1h当たりの費用が妥当かどうか判断しなければいけないということになる。
齋藤	また、幹事会の議題となった場合、幹事会でその計画について説明する必要がある。
大西	あとはどのくらい地図が売れるかが気になる。
山川	学連にとって価値がある事業なのかどうかで判断すればいいと思う。
齋藤	結局、地図の改定場所と事業の価値を学生や私がどのくらい感じるかである。説明をしてもらい、OKが出れば事業をしてもらい、事後処理をしていくことになる。
大久保	会計としては、こういうものを保存しておかなくてはならないだろうか。
山川	そのようにしてほしい。会計には責任があるので、保存してほしい。
齋藤	規約に窓口が書いてあるので、正責任者である会計と、副責任者である地図会計担当理事がデータを持てばよい。
山川	この事業は関東に限った話ではないので、ぜひ立候補してほしい。

齋藤	大会運営の経験がインカレ運営にもかかわってくる。経験者が少なくなってきたため、運営者が固定化してきているという面もある。
	<p><b>8.シード選手紹介のあり方について</b>  <b>9.インカレ表彰、閉会式のあり方について</b></p> <p>加盟員より「インカレ開会式でのシード選手紹介とインカレ表彰式・閉会式の在り方に問題があり、見直すべきだ」という意見が寄せられたため、幹事会で議論した。  シード選手紹介については、「シード選手やその関係者の負担になっているうえ、モラルの問題がある」とされ、また、インカレ表彰式・閉会式については、「時間的な問題とモラルの問題がある」という問題提起があった。  幹事会としては、これらの問題提起について理解したうえで、インカレ終了後にアンケート調査を行い、加盟員の認識を把握して、それらの在り方について考えていくこととなった。</p>
野本	<p>早稲田大学4年の尾崎弘和氏より、「シード選手紹介のあり方」と「インカレ表彰、閉会式のあり方」についての提案があった。  「シード選手紹介のあり方」については、選手に課される負担が大きいと、「そもそも学生選手権の格式として、学連がシード選手紹介をするべきではなく、必要ならば、シード選手経験者などの意見を聞くことができるだろう」としている。  また、「インカレ表彰、閉会式のあり方」では、現在、表彰式では、各クラスごとに写真撮影や花束贈呈を行っているが、「それによって時間が押しやり、大人数が一斉に動き出すために危険性がある」という問題があるので見直してほしいとのことだった。  こういった意見をもらったため、今回の議題としてもらった。</p>
大西	<p>【シード選手紹介のあり方について】  「シード選手紹介では、一般の人から見れば面白くない内容が散見される」というが、ここでいう「一般の人」というのはどういう人を指しているのだろうか。</p>
佐藤	(来賓として出席した、インカレ開催地の)市長さんだろうか。
大久保	ただ市長さんは5分くらいしかいない。
野本	基本的には「(インカレとしての)格式として問題がある」ということを言いたいのだろう。
平野	シード選手紹介は事業部の担当である。私の考えを述べると、今年に関しては、この一意見だけで変えることは難しいので、例年通り行いたい。今年度のシード選手や他の加盟員がシード選手紹介について、どのように考えているのか調査して、来年度以降に引き継いで考えていきたいと思う。
野本	「こういう意見があるので知ってもらいたい」という(提案者の)意図なのだと思う。シード選手紹介を楽しみにしている人もいるだろうし、その一方で不満に感じる人もいると思う。ヒアリングをしてみて、判断してみれば良いと思う。
大西	話をまとめると、「インカレ開会式は大きな会場を貸し切っているのに、ふざけ過ぎではないのか」ということだろう。
佐藤	そのようにとらえる人がいてもおかしくはないだろう。
野本	その考え方はそれで筋は通っていると思う。
宇井	意見を集めるきっかけとなったので、(インカレ)終了後にみんなに聞いてみたい。
野本	もっといいやり方があるかもしれないし、「そもそも(シード選手紹介は)必要ない」という意見があるかもしれない。
	<p>【インカレ表彰、閉会式のあり方について】</p>
宇井	インカレ表彰式についてはどうだろうか。表彰式の様子を見ていて、みんな「危ない」と思うのだろうし、やられる側も怖いだろう。表彰式終了後に大学単位で写真を撮るなどするのは問題ないと思うが、それを表彰式の時間を使ってまでやるのは見直した方がよいという意見なのだろう。
大西	花束贈呈の時間に制限をかけるべきだろう。本来は花束を渡すための時間だが、いつの間にか、うまい棒やバナナといった花束以外のものを渡すようになった。年によっては、「表彰対象者に渡してよいのは1人1つまで」という制限がかけられていたことがある。ただ、花屋さんを呼んでいる以上、花束贈呈はあった方がよい。
佐藤	閉会式のときに、幹事長からこのことについて述べてみたらどうだろうか。
宇井	話す機会があったら、そのことについて触れることができたらよい、と思う。
	<p><b>10.目安箱の設置</b></p>
	<p>加盟員から、「Twitter上で日本学連の活動に関する議論が繰り広げられることがあるが、これらの意見を、公式な形で募集してみたらどうだろうか」という意見が寄せられた。加盟員が幹事会で意見を届けるのはハードルが高い現実があり、そのハードルを下げるためには、目安箱を設置することが示された。しかし、幹事会の議論が加盟員になかなか伝わっていないという現状もあるため、まずは各地区学連で各大学渉外へその議論について理解してもらうことになった。</p>
佐藤	<p>これも、ある加盟員から提案があったため、今回の幹事会の議題に追加したものだ。  以前からTwitterで(日本学連の活動について)議論している人が少なからずいる。「そういった形で意見をもらうのは望ましくはないのではないだろうか。目安箱でもいいし、ホームページなどで募集したらどうだろうか」という意見を私が受け取った。</p>

- 本来は、意見は学連の方にメールで送るのが普通なのだろう。(寄せられた意見のとおり)学連ホームページ上や大会会場などで紙に書く形で(学連に関する)意見を募集して幹事長へ伝わるようにすれば、加盟員が意見を言いやすくなると思う。
- 現状では、例えば各大学の渉外や幹事を通さないと、幹事会まで意見が届かないので、幹事の知り合いがいらないような人は意見が言いづらい。「幹事会は何をやっているのかわからない」と感じている人はかなり多いと思う。私も大学1年の頃はそうだった。「いぶき」でも広報はしているが、幹事会と加盟員との垣根をもっと取り払っていった方がいいと思う。
- 大西 各大学の渉外から各地区学連幹事長を通じて幹事会へ意見を届けるのは、ハードルが高すぎるように思う。
- 宇井 日本学連が後援している大会の会場に目安箱を置いてもいいのかもしれない。
- 大久保 それとは別にメールアドレスを作ってみてもいいだろう。
- 佐藤 今年のインカレに目安箱を置くことはできないだろうか。
- 齋藤 置くことは簡単にできるが、(関係のない意見を)取捨選択できないといけない。
- 佐藤 あと、「OB・OGになったときに意見が言いづらい」という声もある。
- 大西 そうなると、無記名だと困るだろう。OB・OGの意見を受け付けるとしても、名前を書いてもらうとかした方がいいと思う。あと、「幹事会で何をやっているのかわからない」という人だと目安箱を置いたこともわからないだろうから、置く場合は周知した方がいいと思う。
- 五味 今回の(インカレプリントに関する)アンケートに関して述べると、加盟校数に対して、アンケート結果を出している大学が少ない(8校)と思う。またインカレミドルのアンケートはインターネット上で解答できるが、回答数は少なかった。目安箱もそうだが、「どうやったら意見を言ってくれるか」という観点で重要だと思う。
- 大久保 大学によっては、話し合っても意見が出ないということがあるようだ。
- 石山 名古屋大学では、メールを渉外に送る形で意見を募集したが、1通も来なかった。
- 齋藤 今回のアンケート結果は、意見がなくても送るようにしたのだろうか。
- 佐藤 意見があったら出してもらうようにした。(結果が出ていない大学については)意見が何もなかったのかもしれない。
- 宇井 どうしても大学としての意見を出してほしいときは、必ず提出するように指示すれば、大体の大学は出してくれると思う。(今回のインカレプリントのアンケートのように)「意見があれば出してほしい」とすると、回答する大学が限られてくる印象が現状としてある。
- 佐藤 (意見を出してもらうようにするには)各大学の渉外に頑張ってもらえないのかもしれない。幹事会で話し合っても伝わらない。総会やメーリングリストで呼びかけて、動かすしかないだろう。「インカレで出した以上、インカレを良くしていきたいのなら、アンケートに答えてほしい」ということを強い言葉で呼びかけなければならぬのかもしれない。
- 五味 ちなみに金沢大学はなぜ毎回アンケートに回答できるのだろうか。
- 高橋 (インカレミドルについての)Webアンケートについては、北信越学連は(実力的に)中間層が多く、競技的に熱心な加盟員が多いため、回答も多かったのだろう。
- 五味 インカレプリントに関するアンケートについては、Web上の掲示板に、メーリングリストで送信した文章を掲載して、ミーティングで話し合った。
- 佐藤 ただ、スルーするところはスルーする。Bエリート議論では、インカレ規則案で変更されている部分について、それがBエリートに関することだと全体は気づかずにいたので、私がおの概要を説明して、議論させた。
- 今思ったことだが、その議題についてよく理解している人が各大学にいないのだと思う。私が渉外の際は、議事録はしっかり読めていなかったもので、その当時は今ほど議題の説明ができなかったと思う。渉外がすべての話を理解しているわけではない。渉外がわからないから、みんなわからないのだと思う。わかる手段があればいいと思う。日本学連非公式Twitterのようなもので、幹事会の議論をかみ砕いて説明することが必要だと思う。例えば、インカレミドルについては、インカレがどう変わるのか、わからないのであり、難しいことではあるが、幹事会の議論が加盟員に伝えることが(加盟員へ情報を伝える)第一歩である。
- 佐藤 議事録を読むことは大変に感じる人もいるだろうから、論点を示すことは大切だろう。
- 宇井 京大では、議事録を部内で共有する際、議論の論点を示している。そういう取り組みをするだけでも違うと思う。各地区学連幹事長には、地区学連総会などで大学の渉外と話すときに、そういったことをしてほしい。ここにいる人が働きかけをして、徐々によくなっていけばいいと思う。すぐにみんなが意見を出してくれるようにはならないと思うが、大事なことである。
- 糸井川 自分の大学で話すべき論点を示すことが、渉外の仕事なのだと思う。
- 佐藤 関東では、渉外の仕事について最初の総会で確認している。ただ、今話してきたことが軽視されている傾向にあると思う。
- 山川 Twitter上でそんなに鋭い意見が飛び交っているのか。
- 佐藤 全部は把握していないが(、そういうことはある)。
- 大西 まずは、各地区学連幹事長が話をよく理解して、地区学連総会で各大学渉外に幹事会の議論について話す機会を設ける必要があるだろう。
- 齋藤 厳しいことを言えば、毎年幹事会で発言している人がすごく少ない。幹事も、わからないことは、この場で聞いてほしい。
- 佐藤 理事の方などは難しい話をしているので、わからない話があると思うが、聞いてほしい。また、地区学連総会では、逆に、渉外がわからないところを説明したり、理解しているか聞いてみたりしてほしい。



	<p>5.2015 年度ICLイベントアドバイザーの選出          現在、鋭意選出中である。もうすぐ決まると思われる。スプリントとロングを兼ねる方向で検討中だ。          ※幹事会終了後の2月3日、日本学連理事会は山上大智氏(インカレロング2014実行委員長)をインカレロング・スプリント2015兼任イベントアドバイザーとして指名した。</p>
	<p><b>13. 理事会報告</b></p> <p>齋藤より、インカレスプリント・ロング実行委員会の承認についてと、2011年度・2012年度会計の処理状況について、それぞれ報告があった。このうち、会計問題については、担当者に一度連絡がついたものの、再度音信不通となり、さらに踏み込んだ対応を考えていく方針が示された。</p>
齋藤	<p>【インカレスプリント・ロング実行委員会の承認】          インカレスプリント・ロング実行委員会の承認を行った。</p>
齋藤	<p>【2011年度・2012年度会計について】          2011年度・2012年度会計については、田村理事がその処理を担当している。現在の経過として、当時の会計の実家の住所がわかったので、その住所に手紙を送ったところ、本人から会計の経緯に関する電話があった。しかし、井戸・2010年度会計や山田・2013年度会計の検証結果とつじつまが合わないの、改めて説明を求めようとしたが、連絡がつかなくなってしまった。この件については、ベテランの理事に指示を仰ぎながら、対応していきたい。</p>
	<p><b>14. 各部局活動報告</b></p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●会計:春インカレへの貸付、インカレスプリント試行大会での赤字補てん、加盟金の調整</li> <li>●事業部:第3回幹事会のとりまとめ、後夜祭・講習会エントリー開始、インカレ開会式会場の手配</li> <li>●広報部:いぶき作成、ホームページ・Twitter更新、広報に関するアンケートの実施</li> <li>●事務局:加盟金の確認、サッカー関東学連への協力(ピラ配布など)、ミドルセレ実行委員会への協力</li> <li>●普及部:賛助会員名簿の管理、インカレ観戦ガイドの作成</li> <li>●渉外部:矢板・所野への回覧書送付、テレイン利用の公示</li> </ul>
	<p>【普及部】</p>
杉村	<p>インカレ観戦ガイドの作成について、各地区学連幹事長は各大学への周知をお願いしたい。なお、今年度は一週間ほど前にWeb上で公開することを考えている。そのことについて渉外メーリングリストを通して、各大学にアンケートを取ろうか少し考えているが、そのようにするべきだろうか。</p>
佐藤	<p>普及部のやりやすいようにやってもらえばよいと思う。</p>
杉村	<p>昨年度までは(購入希望のすべての大学に販売することができないなどの)トラブルがあった。それでは、印刷はせず、Webでの公開をするようにしたい。</p>
佐藤	<p>(印刷をしないことに決めた)いきさつを発行と合わせて説明してもらえればいだろう。</p>
	<p>【会計】</p>
宇井	<p>加盟金の調整とは、具体的に何を行っているのだろうか。</p>
大久保	<p>東海学連が加盟金を過払いしていたので、事務局と一緒に加盟員名簿と(それに比例して支払われるべき)加盟金が入っているか確認したところ、他の地区学連についても、不備が見つかった。現時点で作業が終わったのは、北東・北信越・広島大(中九四)である。東海についてもめどはついていないが、関東・関西は収拾がついていない。</p>
佐藤	<p>何が原因となっているのだろうか。</p>
新粥	<p>今まで、会計と事務局の間でこのような相互チェックを行っていなかったらしく、振り込まれていたならそれでよしとしていた。(2011年度・2012年度の)会計問題が明らかになったので、今年度はきっちり処理しようと確認したところ、このような事態となった。</p>
野本	<p>昨年度も、このような状況に陥った。関東と東海が過払いしていたが、そうなった理由は結局誰も覚えていなかった。</p>
大久保	<p>今年度の場合、加盟金を値下げしたのだが、地区学連の会計や事務局あたりが勘違いして、かっつての金額で振り込んだようだ。関東・関西については、よくわからない。</p>
	<p>【事務局】</p>
新粥	<p>ミドルセレ実行委員会から、理事・幹事名簿や規約の提供依頼があり、対応した。          あと、事務局の光熱費・電話代についてだが、いまだに(解約手続きなどのないまま)自動的に口座から引き落とされている。</p>
山川	<p>それらについては解約することになっているが、多忙のために手続きがいまだにできていない。申し訳ない。家賃だけは下げた。</p>
新粥	<p>よろしく願いたい。</p>
山川	<p>パソコンはかつてコンピューターウイルスに感染して復旧させた。3年くらい前からは事務局長個人のパソコンで処理を行っていると思うが、学連の保有するデータ、特に個人情報もしっかり引き継いでいるのだろうか。</p>
新粥	<p>大丈夫だと思う。前任者からデータはもらっている。</p>
山川	<p>以前事務局で使っていて古くなったパソコンは、処分されないまま、私のところで保管されている。処分前に何かしなければならぬだろうか。</p>

新粥 山川	過去のデータについては、事務局で管理しているUSBメモリで管理している。 かつては学連内に「情報管理システム」を構築したが、パソコンの低価格化などに伴い、現在は個人パソコンで管理するようになった。
橋場	【渉外部】 山川・副会長(YMOE社)にテレイン利用の公示を行ってもらった。 あと、矢板テレインの渉外方法を見直した。今までは、事前に書類を郵送するのみであったが、まず市役所に書類の確認を取り、区長へ電話を入れてから(書類の)郵送している。
高橋	【広報部】 「いぶき」など、日本学連の広報のあり方に関してアンケート調査を実施した。結果を別途資料に示した。
<b>15. 各地区学連活動報告</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>●北東学連: 岩県大会兼北東選手権(10月26日)、ミドルセレクション(12月21日・関東学連合同)、学連総会(12月21日)</li> <li>●関東学連: ミドルセレ(12月21日・北東学連合同)、</li> <li>●北信越学連: 新潟大学大会(10月26日)、ミドルセレクション(12月28日)</li> <li>●東海学連: 東海学連冬合宿(12月27日～29日)、ミドルセレクション(12月28日)</li> <li>●関西学連: 第2回定例戦・新人戦(10月26日)、京大京女大会(11月15日～16日)、ミドルセレ・学連総会(11月30日)</li> </ul>	
<b>【関東学連】</b> 今年度のミドルセレでは男子は2レーン使って出走した。それに関する報告がこれからミドルセレ実行委員会から出される。また、今回推薦は出ていない。	
<b>16. 次回幹事会、総会について</b>	
<b>【次回幹事会】</b> ●開催日: 3月5日(インカレ開会式前日)、8日(5日で終わらない場合) ●開催地: 新城駅周辺(5日・愛知県新城市・予定)、(8日後夜祭会場)	
<b>【次回総会】</b> ●開催日: 3月9日(後夜祭翌日) ●開催地: (後夜祭会場)	
総会終了: 21時35分	

**【備考欄】**

20時36分 野本・村瀬 途中退席